
さわやかday ~ 穏やかな時間 ~

彩瀬姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さわやかdayゝ穏やかな時間ゝ

【Nコード】

N6981H

【作者名】

彩瀬姫

【あらすじ】

緑の公園に來た響と大翔。いつもと違う環境に響は？「響×大翔」シリーズ第7弾！！

（前書き）

ボーイズラブです。苦手な方はご注意ください。

「わぁー！ー！大翔すごいすごい。なんか緑って感じがするよっ！ー」

僕——響と恋人の大翔が来ているのは、緑の沢山ある公園。人が誰もいない。二人は公園にあるベンチに一緒に座っていた。

「遠くへきてよかったよな」

「うんっ」

夏休みにはいった。

せっかくだから、遠くへ遊びに行こうということで静かな公園に来た。

町中に住んでいるから、こういう静かで緑のある公園はなかなかなく、二人きりで静かにデートというものをあまりしたことがなかったのだ。

「何か空気が澄んでる」

僕は大きく深呼吸をした。

綺麗な空気が僕の中に入ってくる。

まるで二人だけの世界みたいだ。——なんて言ったら大翔は怒るだろうか？

「響。あのなあ……」

「……うん？」

「そのまたここに来ような」

僕の右手に大翔の左手が重なる。

「うん……」

下を向いていたので大翔の表情が分からない。多分僕と同じで顔が赤くなっているのだろう。

この前、大喧嘩をした時から、大翔は言葉にしてくれるようになった。言葉にすると、それよりもうれしい言葉が返ってくる。

幸せすぎて、くすぐったい。

「風が気持ちいいね」

「ああ……」

最近、分かったことがある。

大翔はそれなりに僕に答えてくれているのだと。

僕が大翔に聞いても、「ああ」とか「そうなんだ」としか答えなくて焦れ喧嘩をしたけど、大翔はいつでも無視しなかった。

一生懸命、僕の話に耳を傾けてくれていたんだって思えるから……

…僕はただ大翔と一緒にいらればいいんだ。

「大翔は、こうゆうところ好き？」

「ええ？」

「大翔は、静かな場所好きだから、こういう緑が沢山なところ好きかなあって聞いてみただけ」

「そうだな」

「でも」っと大翔は続ける。

「やっぱり響と一緒にいられる場所ならどこでもいいけどな」

——同じことを考えてたの？

僕は目を瞠る。大翔は罰悪そうに視線を逸らす。

「大翔もおんなじことを考えてたんだね」

そっと大翔の肩に凭れかかる。

「……」

「はあ……」

緊張していたのか、溜息をついたら体の力が抜けた。

「響？」

「うん？」

大翔は僕の名前を呼ぶと、僕を優しく微笑んだ。

澄んだ空気。

木々たちが揺れる音。

——優しい風は、僕たちを包み込むように暖かだった。

（後書き）

こんにちは。彩瀬姫です。

忙しくて短いお話になってしまったのですが、どうだったでしょうか？

来月はもっと忙しくなるので、もしかしたら14日にアップできないということもあるかもしれません。

できるだけ早くアップできるようにしたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6981h/>

さわやかday～穏やかな時間～

2010年10月9日23時36分発行